

生き物さがしと なかま分けをしよう!

【個人出展】

東京都葛飾区立一之台中学校 河野 晃

●どんな観察なの？

生き物にはいろいろな種類があります。公園などに出かけ、探してみましょう。科学の祭典の期間中、ブースにて土の中の生き物観察を行います。自然観察ツアーでは、北の丸公園内にて自然の“宝”探しゲームなどを行う予定です（天候等の事情により中止になる事もあります）。

●観察のしかたとコツ

土の中から見つけた4つの生き物、どんな基準で分けたでしょうか？



①ミミズ



②アリ



③クモ



④ダンゴムシ

・土の中の小動物

足の数に注目しましょう。上記では①足のない仲間、②昆虫の仲間、③クモ・ダニの仲間、④足の多い仲間に分けました。次に節の有無や形、色などを頼りに仲間分けをしましょう。

・木や草などの植物

草か木か。元から日本にあった植物か、それとも園芸植物か。調べる図鑑も違ってきます。花が咲いていれば、その色や形などで調べます。葉しかないときは、その形や、茎に対しての付きかたなどを手がかりに調べていきましょう。

・鳥

大きさはどの位でしょうか？スズメ、ハト、カラスなど身近な鳥の大きさを物差しにして見てみましょう。くちばしや足、羽の色は？鳴き声の特徴は？鳴き声を聞いたら、自分でも口まねをして覚えてみましょう。

●気をつけよう

・野外には、毒を持った生物がいたり、危険な場所もあります。小さなお子さんは、必ず大人の方と一緒に出かけるようにしましょう。何かにさわった後は、必ず手を洗いましょう。

●もっとくわしく知るために

- ・青木淳一著：「だれでもできるやさしい土壌動物のしらべかた」合同出版（2005）
- ・杉山恵一、他著：「自然観察の基礎知識」信山社サイテック（2001）
- ・日本自然保護協会編・監修：「野外における危険な生物」平凡社（1994）

このほか、各地の自然保護協会などが行う自然観察会などに参加すると、地域の会の情報などを教えてもらえます。自然科学を学ぶには、観る力が大切です。現代では、情報や目新しい物に目がいきがちで、とかく生の体験や物事をじっくり観る機会が不足しがちです。身近な公園でも、じっくり観れば子どもにとって新しい発見がたくさんあります。こうした“足もと”を見る経験をしっかり積んでこそ、新しい発見が生まれてくるのではないのでしょうか。